

2023年度 杏林大学 市民聴講生講座 募集要項

■ 提供科目

※ 曜日・時限・授業内容・授業形態が変更の可能性もあります。
 ※ 祝日開講する講座もあります。 予めご了承下さい。

No.	時期	講座名／講師名	講座内容	期間／曜日／時間
1	前期	英語学特論Ⅳ (応用言語学) 八木 橋 宏勇 外国語学部 准教授	本講義は、認知言語学・第二言語習得について、「担当者が主導するディスカッション形式の基礎演習」と「学生によるプレゼンテーションと発展演習」の二本立てで展開される予定である。「用法基盤モデル」の観点から日常の言語現象をより分析的に考えられるようにトレーニングを行い、ことばに関する様々な現象への興味関心および洞察力を深めていく。最終的には、発展的で意義のある疑問を抱き、考え抜いてその疑問を解決に導く、という主体的な思考経験を積み重ねることで「問題発見力」「問題解決力」を「学問を通して」身につける。	4/10 ～ 7/24 毎週月曜日・5限 16:20～17:50
2	前期	英語学特論Ⅰ (統語論・文法論) 稲垣 大輔 外国語学部 教授	ことばは「心の鏡」と言われます。私たち人間は、ことばを使わずに、考えたり、コミュニケーションしたり、社会生活を送ることはできません。ことばは私たち人間を人間たらしめている種に固有の生物学的特徴です。では、その「ことばの知識」とはどのようなものなのでしょうか？そして、その知識を幼児はどのようにして獲得するのでしょうか？ 本講義では、「生成文法理論」と呼ばれる、「ことばの知識」を、自然科学と同様に、データの収集、一般化、仮説の検証・反証、理論化という科学的方法を用いて解明するアプローチについて理解することを目的とします。生成文法理論が1950年代に誕生して以来、半世紀の月日が経過しましたが、この理論が一貫して掲げている目標・問題意識を確認した上で、英語という個別言語の具体的分析を通して、英語の文法を記述し、理論化する方法を学びます。	4/7 ～ 7/21 毎週金曜日・3限 13:00～14:30
3	前期	日中比較文化論Ⅰ (正月～端午節) 詹 満江 外国語学部 客員教授	日本と中国は大変長い間交流してきました。漢字を共有するだけでなく、文化の基盤をも共有してきたのです。例えば、日本における「お月見」は旧暦の八月十五日夜の満月を觀賞し、お団子を食べる習慣ですが、この習慣は中国にもあり、その由来を求めるとどうやら唐代に始まったらしいことがわかるのです。現代の日中の文化はあまり接点がないかのように見えますが、実はさまざまな点で同じルーツを持っているのです。お正月のように、東アジアの国々の多くは旧暦で祝い、ほとんど日本のみが新暦で祝う、という相違もありますが、現代でも東アジア、特に日中に共通の習慣はけっこう多いのです。この授業では、歳時を通して、日中の文化を比較していきます。	4/11 ～ 7/18 毎週火曜日・3限 13:00～14:30
4	前期	韓国の文学・文化 鄭 英淑 外国語学部 教授	東アジアの中でも昔から交流があり、歴史的にも深い関係を持つ韓国(人)について知っていく。前半では、説話を紹介して昔からの韓国民族の思想・感情・情緒を吟味し、後半では現代韓国の文化を紹介し、韓国文化全般について理解する。これは発展的な日韓関係、東アジア共同体構築に向けての広い視野を持つにもつながると考える。 韓国文化、韓国社会、韓国人についての総合的な知識を得て、理解を深めること。また、授業の後半には課題発表を予定しているため、韓国の様々な文化について発信できることを目標とする。	4/7 ～ 7/21 毎週金曜日・4限 14:40～16:10
5	前期	表象文化論Ⅰ (文学作品の映画化に見る景観) 高木 眞佐子 外国語学部 教授	フィクションであると知りつつも、映画を観た時、そこに展開する見知らぬ風景に憧れの念を抱くことが、誰にでもあるのではないだろうか。それは恐らく、そうした風景が歴史や文化の重みを持ちつつ、なおかつ我々に理解可能なストーリーを運びながら迫ってくるからである。それでは都市景観や文化遺産あるいは田園風景は、どういった瞬間に「魅力的」に映るのだろうか。本講義では欧米を舞台とする映画をいくつか取り上げ、そこに描かれる土地や空間が我々に生じさせる「感覚」について考察する。受講者諸君には、日本とは異なる文化が根ざしている美意識や価値観の違いに親しむとともに、正しい歴史・地理感覚や場所のイメージ(トポグラフィ)を掴んで欲しい。また、比較対照をするために、講義内では日本の映画についても言及することがある。基本的に講師が材料を提示していくが、学生諸君の希望に応じて他の作品も取り入れていきたい。	4/7 ～ 7/21 毎週金曜日・2限 10:40～12:10
6	前期	アジアの文学・文化(日本) 河路 由佳 外国語学部 特任教授	五・七・五・七・七の韻律からなる短歌(和歌)は、古代から今日に至るまで、日本の文化・文学の歴史を通して享受されてきた。それぞれの時代の人びとが前時代の作品を読んでは新たな作品を作り、新しい作品が生まれ続けている。 8世紀に成立した『万葉集』は、今から1200年以上も前のものだが、社会環境や人々の生活が大きく変わったにもかかわらず、現代の私たちの心にも響く作品が少なくない。 本授業では、古代から現代にいたる代表的な作品を鑑賞しながら、短歌(和歌)の文化を現代へとたどる。その際、ドナルド・キーン『日本文学の歴史』を参照することを試みる。日本の文学の価値を世界に知らせたキーンは、和歌、短歌をどう読んだのだろうか。 近代になって、短歌は広い範囲の人々に身近になった。現代では多くの新聞・雑誌に短歌の投稿欄があるし、電子媒体を通して短歌を楽しんでいる人も大勢いる。本講義では、この詩形の魅力を、講義と作品鑑賞を通して考える。	4/10 ～ 7/24 毎週月曜日・2限 10:40～12:10
7	前期	行動経済学 糟谷 崇 総合政策学部 准教授	行動経済学は、従来の経済学では説明できなかった社会現象や経済行動について、人の直感や感情などの心の動きを重視し、人間行動について説明しようとする学問です。本講義は、行動経済学の基礎を学び、人間行動や意思決定の問題を理解できるように学んでいきます。この授業の目的は以下のとおりである。 ① 意思決定がどのような行動仮定に基づいて行われているかを考察する。 ② データ分析の手法の違いによる意思決定への影響を考察する。 ③ こうした考察を通じて、経済学、心理学、社会学、統計学における人間行動の違いを理解する。	4/11 ～ 7/18 毎週火曜日・2限 10:40～12:10

No.	時期	講座名／講師名	講座内容	期間／曜日／時間
8	前期	財政論 知原 信良 総合政策学部 客員教授	財政について、入門レベルから始めて全体像をひととおり理解するための講義である。政府の役割、予算、租税、社会保障等の仕組みや諸課題について政治経済学的観点から学んでいく。 経済コースにおける応用科目であるが、現代社会で財政が果たす重要な役割に鑑み、基礎的な知識を固めたうえで、現在および将来の財政のあるべき姿を考え、自分の言葉でそれを発信することが出来るようになることを目指す。	4/11 ~ 7/18 毎週火曜日・3限 13:00~14:30
9	前期	外交政策論A 島村 直幸 総合政策学部 准教授	講義では、国際関係と外交について、主要なテーマを一つずつ取り上げ、歴史と現実に対する理解を深める。 外交とは、近代以降の主権国家の間で展開されてきた対外政策の術であり、世界政府が存在しない「無政府状態(アナキー)」の国際社会では、第一義的には「国家の生存」のために「秩序の安定」を目的としてきた。しかし、現代の外交では、経済や開発、人権、環境といった問題領域や争点の重要性が、たしかに相対的に高まってきた。なぜなら、二度の世界大戦を経験し、核兵器が出現した現代の国際社会では、少なくとも大国間での戦争が勃発する蓋然性が著しく低下し、過去と比較すれば、安全保障や軍事力の重要性が相対的に低下してきたからである。 また同時に、国際的に相互依存が深化したことにより、戦争はますます起こりにくくなりつつある。国際社会で民主化や制度化がさらに進展していけば、戦争がやはり起こりにくくなる(はずである)という指摘もある。さらに、国際連合(国連)などの国際機関、多国籍企業、NGOや市民社会など、主権国家以外の行為主体(アクター)の重要性も、現代の外交ではたしかに無視できない。 しかし、国際システムが基本的に主権国家からまず構成され、システム原理が「無政府状態」であるという現実が根本から変化したわけではない。たとえば、国連はあくまでも主権国家の集まりであり、主権国家よりもより上位の権威、すなわち世界政府ではない。また、ヨーロッパ統合は、たしかに主権国家を乗り越える歴史的な実験を積み重ねてきたが、深刻な財政危機に直面し、今まさに歴史的な岐路に立たされている。	4/6 ~ 7/27 毎週木曜日・1限 9:00~10:30
10	前期	アメリカ政治論 島村 直幸 総合政策学部 准教授	21世紀はじめの国際秩序は、中国の台頭やロシア・ウクライナ戦争の勃発を受け、アメリカ中心の単極構造が相対化されていくと予測されている。近代以降の主権国家システムの変容を予測する議論までである。アメリカ政治外交の現状をいかに分析し、将来をいかに展望できるのか。 講義では、まずアメリカ外交の伝統を取り上げ、次いで第二次世界大戦後の冷戦期のアメリカ外交史を考察する。イギリスの歴史家E.H.カーが指摘したように、複雑な現在の問題をより深く理解するためには、過去の歴史を学び、過去と現在とを”対話”させる必要がある。アメリカ外交の歴史を学ぶ場合も、例外ではない。 また大統領とアメリカ議会、二大政党制など、アメリカ政治の仕組みについて議論したい。アメリカ政治は、アメリカ合衆国憲法によって、「権力の分立」と「抑制と均衡」の原則が厳格に適用されている。民主主義国家のアメリカ外交は、内政の動きと切り離して議論することができない。なぜなら、大統領とアメリカ議会の間では、内政だけでなく、外交でも「抑制と均衡」が機能することが期待されているからである。	4/6 ~ 7/27 毎週木曜日・3限 13:00~14:30
11	前期	時事問題研究B<春> 島村 直幸 総合政策学部 准教授	国際政治経済の時事問題について、レジュメや新聞記事などを題材にして理解を深めていく。 2016年は、アメリカ大統領選挙や日本の参議院選挙など、国際的に選挙の年であった。2017年は、ドナルド・トランプがアメリカの新しい大統領となった。2018年にはトランプ外交が本格的に始動した。2018年から2020年にかけては、米中貿易戦争が勃発している。米中間で「新しい冷戦」まで指摘される。 また、BRICSなど新興国の台頭を受け、地政学が復活した、という議論もある。「イスラム国(IS)」の脅威の衰退後も、シリアの内戦やイラン問題など、中東情勢は混迷を深めている。アメリカ外交は、オバマ政権の下で、迷走を深めた。トランプ外交は、混迷を極めた。バイデン政権の政策対応が注目される。 21世紀の国際秩序は、いかなる方向へ向かうのであろうか。	4/7 ~ 7/21 金曜日 3限 13:00~14:30
12	前期	中東・アフリカの政治・経済 知原 信良 総合政策学部 客員教授	中東・アフリカの政治・経済について学ぶ。 この地域は、地理的にも遠く宗教が絡みことから、敬遠しがちであるが、関心が高く需要視されている。 多様な資源やエネルギーの供給源として重要であり、歴史や文化に深いつながりがあることはあまり知られていない。歴史、宗教、文化にも関連付けながら、中東・アフリカ地域の経済的、国際関係上の課題について論じる。	4/6 ~ 7/27 毎週木曜日・2限 10:40~12:10
13	前期	食品製造学 大久 朋子 保健学部 准教授	食品を大別すると植物性食品と動物性食品に分類できる。人間は、この食品を洗う、挽く、捏ねる、おろす、のす、切る、漬けるなどの物理的調理操作から、焼く、炒める、蒸す、煮る、茹でるなどの加熱調理操作、発酵、凝固などの化学的調理操作を用いることによって、様々な食品を製造してきた。そこには、理論があり、それによって技術が進歩してきたのである。この各種加工品の製造手法を中心に学ぶ。 各種食品の製造手法について習得するとともに、その背景となる科学技術についても理解する。また、環境に新しい製造技術とは何かについても考察する。	4/12 ~ 7/26 毎週水曜日・3限 13:00~14:30
14	前期	福祉心理学 石川 智 保健学部 講師	福祉領域は、保健・医療、教育に続き心理職が働く領域となっている。本講義では福祉現場における心理社会的課題および心理的支援について学んでいく。各現場の支援対象である人々の持つニーズと社会的背景について基本的なところから考える。また、福祉領域では対象者への支援が生活全般に及ぶ場合もあることは特徴的であり、その支援の基盤となる我が国の社会福祉制度の概要についても学習する。	4/6 ~ 7/27 毎週木曜日・5限 16:20~17:50

【申込受付期間】 ◇前期期間 2023年3月15日(水)～3月24日(金)

◇後期期間 2023年7月14日(金)～8月16日(水)

【対象】 原則、18歳以上の方で、大学レベルの講義に関して学習意欲のある方。

【募集人員】 いずれも若干名(申込多数の場合は、締切前に申込をお断りすることもあります)

【受講料】 1科目 11,000円

※三鷹市在住の18歳以上の市民(学生を除く)の場合、年間1科目を限度に1,500円を助成します。

助成を希望される方は証明書類(運転免許証・健康保険証等)を三鷹ネットワーク大学 申込窓口にて提示ください。

※教材費がある場合は、実費負担となります。

【申込・支払方法】 三鷹ネットワーク大学の窓口で現金にて支払(受講申込書あり)

■ 注意事項等

◇ 講義は正規学生と共に受けていただきます。

◇ 学内のルールを守られない方や正規学生及び他の受講生、教職員への迷惑行為をされた方は期間中でも受講をお断りします。(受講料の返還はありません)

◇ 欠席された場合、講義のレジュメ等の取り置きはいたしませんのでご了承下さい。

◇ 一旦申込まれた講座の変更は原則としてできません。(受講料の返還はありません)

◇ 公共交通機関をご利用下さい。駐車場・駐輪場はありません。

◇ 講義は原則として対面形式で行われますが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、Zoom等でのオンライン授業に変更となる可能性があります。

また、休講情報等、大学からの連絡は原則e-mailで行いますので

PC・タブレット・スマートフォンいずれかの機器をご用意いただき、e-mailの送受信ができるよう予めご準備下さい。

※ 詳細はお問合せ下さい。

市民聴講生講座に関する問い合わせ先

杏林大学 (井の頭キャンパス) 地域交流課

〒181-8612

東京都三鷹市下連雀5-4-1

TEL : 0422-47-8000 (代表)

窓口取扱時間

平日 : 9 : 00 ~ 17 : 00

土曜 : 9 : 00 ~ 12 : 00

申込・支払先

特定非営利活動法人

三鷹ネットワーク大学推進機構

〒181-0013 東京都三鷹市下連雀3-24-3

三鷹駅前協同ビル3階

TEL : 0422-40-0313

開館時間

火曜日～土曜日 : 9 : 30 ~ 21 : 30 (入館は21 : 00まで)

日曜日 : 9 : 30 ~ 17 : 00

